

コロナ禍による大学生の就職活動の変化

山田 彪真¹・児島 侑英²・金塚 瑛杜³・佐野 航⁴・森 一将⁵

¹非会員 文教大学 経営学部 経営学科
E-mail:b9r11166@bunkyo.ac.jp

²非会員 文教大学 経営学部 経営学科
E-mail:b9r11063@bunkyo.ac.jp

³非会員 文教大学 経営学部 経営学科
E-mail:b9r11049@bunkyo.ac.jp

⁴非会員 文教大学 経営学部 経営学科
E-mail:b9r11bunkyo.ac.jp

⁵会員 文教大学 経営学部
E-mail:morik@bunkyo.ac.jp

本研究では、コロナ禍の就職活動に対する行動調査において、現場社員の方の話を聞くことで、就職率に影響があるかを調査するものである。令和3年の厚生労働省の就職予定であった者のうち、116人・37事業所31.9%で内定取り消しとなった者が存在した。これらの就職困難率の変化が就職活動に与える影響を調査する。2022年卒の就職活動に不安を感じていた大学生が88%存在し、次年度の学生が就職活動に不安を感じている。就職活動になると不安を感じている学生が多い。就職活動に不安を感じているのは当然であるが、コロナ禍によってより一層不安に感じる可能性がある。コロナ禍による就職活動においては先輩とのつながりが多い人がインターンシップ参加率が高い。先輩とのつながりを増やすためには、大学の教育支援課を通じて先輩との懇談会等に参加することが重要である。

Key Words : コロナ禍、就職活動、リモート、新入社員、就職率

1. はじめに

本研究では、コロナ禍の就職活動に対する行動調査において、新入社員の方の話を聞くことで、就職率に影響があるかを調査するものである。

令和3年の厚生労働省の就職予定であった者のうち、116人・37事業所31.9%で内定取り消しとなった者が存在した。これらの就職困難率の変化が就職活動に与える影響（行動調査）を調査する。

22年卒の就職活動に不安を感じていた大学生が88%存在し、次年度の学生が就職活動に不安を感じている。就職活動を感じているのは当然であるが、コロナ禍によってより一層不安に感じる可能性がある。

「マイナビのEXPO」では就職氷河期であるコロナ禍によって内定を獲得した2021年卒の新入社員の体験談が記

載されている。よって、リモート面接、グループワークでの立ち回りなどリモートによる就職活動の戦略を練ることが出来る。

これまでの就職活動では業界の知識や企業での訪問数、OB,OG訪問が多い学生が内定を確立してきた。

入社5年以上の方にお話を聞くと業界のスキルや知識では上回る点が多いがリモート面接などの意見交換の難しさは理解不十分な点が存在している。一方、コロナ禍後に就職活動を行い内定を獲得した新入社員の方はコロナ禍によって変化した採用方法を経験している為、グループワークや面接など就職活動の対策がしやすい。結果就職率はあがると考える。

2 実験の概要と手続き

2021年11月に学生54名（男性42名、女性12名）を対象に

就職活動の行動調査を実施した。「就職活動の行動調査に関するアンケート」5件法、4件法によるアンケートとした。さらに、「就職活動の行動調査に関するアンケート」ではコロナ禍の就職活動に対する行動調査において、新入社員の方の話を聞くことで、就職率に影響があるかを調査するものである。

3 分析結果

まず、就職活動を行う大学生に関して新入社員の声を参考にすることによって不安に感じるかどうかを得点化した。それらを、ボンフェローニ方法を用いて多重比較を行い分析した。その結果、(図1) 少し参考にすると、あまり参考にしないの人に (F(4, 48)=4.71, p=0.002) 有意差が見られた。

この分析結果から言えることは新入社員の声を参考にしない人ほど就職活動に対して不安に感じていない人が多い。よって、新入社員の声を参考にすると人は就職活動に対して多くの不安を抱えている。

次に、就職活動中の大学生に関しての先輩とのつながりとインターンシップ参加状況の関係性について得点化した。これらを図1と同様にボンフェローニ方法を用いて多重比較を行い分析した。その結果、どちらかというところある人、(F(4, 48)=3.64, p=0.01)及びどちらかというところない人に有意差がみられた。この分析結果から言えることは以下の点である。

インターンシップ参加率に関しては先輩とのつながりがある人となない人では多く差はない。よって、就職活動を行う大学生には先輩とのつながりではなく個人の行動意欲が参加状況に影響する。

4結論

本研究では、就職活動を行う大学生を対象とし、コロナ禍の大学生による就職活動の変化についてアンケート調査を用いて分析した。新入社員の声を参考にすると人は不安を感じていることが明らかになった。これは、コロナ後の就職活動を行う大学生がコロナ前の就職活動を行ってきた中堅社員やベテラン社員の意見を聞くことを重要視している。先輩とのつながりを増やすことでインターンシップ参加率が増加し、就職活動において戦略を効果的に立てることが出来る。先輩とのつながりを増やすためには大学内の教育支援課等が主催する先輩との就職活動交流会を通じて情報を共有することが重要である。

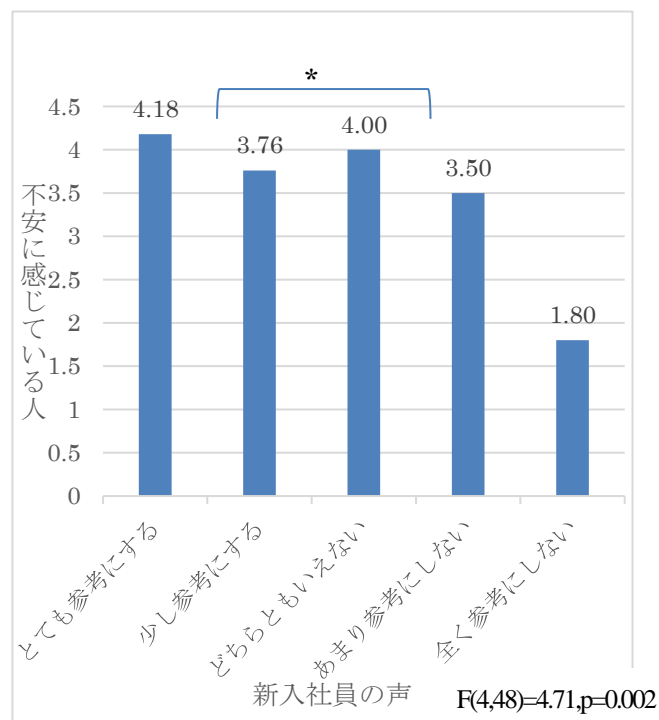


図1 新入社員の話を参考にすることかどうか

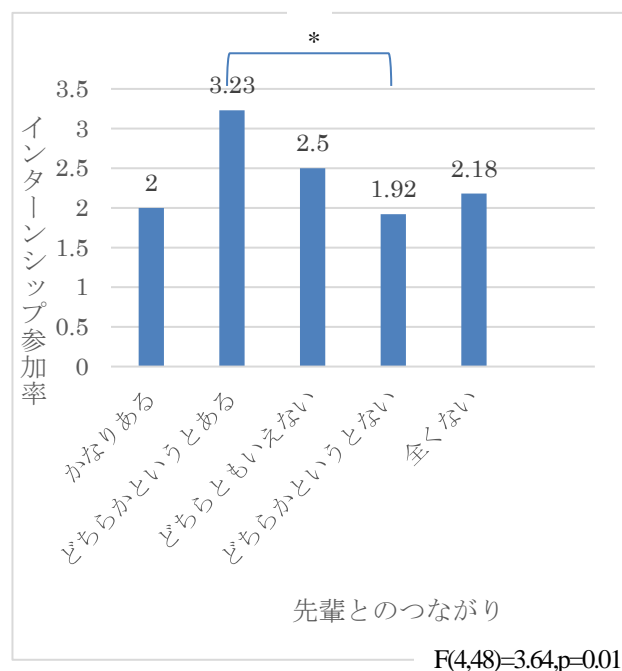


図2 インターンシップ参加状況、先輩とのつながり

参考文献の引用とリスト

「厚生労働省」令和3年新卒内定取り消し公表
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/00001848>